

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ04-11-1/5)

目 的

西アジア諸国、とくに内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア、インド、コーカサス）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

成 果

1. アフガニスタン（バーミヤーン）

1-1. バーミヤーン遺跡保存のための専門家会議（12月6日～8日、東京、ユネスコと共催）

バーミヤーン遺跡の保存に携わる各国の専門家およびアフガニスタン情報文化省等関連機関の専門家・行政官を日本に招聘し、12月6日～8日にかけて専門家会議を実施した。（アフガニスタンより6名、イクロム、イタリアより各1名を招聘。ほか、ドイツ、フランス等から参加。）各国が行う保護活動および人材育成の成果を共有し、今後の保護活動の計画を議論した。

1-2. 国際シンポジウム「大仏破壊から10年 世界遺産バーミヤーン遺跡の現状と未来」

12月9日に東京、11日に京都においてシンポジウムを開催し、バーミヤーン遺跡保護事業の成果の総括、および広く一般に向けた情報公開を行った。（文化財保存施策の国際的研究と連携して実施）。

1-3. アフガニスタン文化遺産調査資料集別冊第4巻：バーミヤーン遺跡資料集1『バーミヤーン谷中心部の文化的景観：1970年代』、および『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2009-2010 -9th & 10th Mission-』を刊行した。

2. イラク

イラク国立博物館より保存修復家1名をアルメニアに招聘し、金属製品の保存修復に関する人材育成を実施する予定であったが、諸般の事情により招聘ができなかったため、次年度に延期して実施する予定である。

3. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等

3-1. トルコ：

カッパドキア石窟壁画の保存修復（ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金）の実施にむけた計画の策定を行った。

3-2. インド：

インド考古局保存修復専門家1名を日本に招聘し、「アジャンター遺跡の保存修復にむけた専門家会議2011」を7月27日に開催した。アジャンター壁画の保存修復に関する成果の共有、および現場での補足調査、人材育成を2月19日～3月3日にかけて継続して実施した。また、『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業－第2窟、9窟壁画のデジタルドキュメンテーション』を刊行した。

3-3. タジキスタン：

国立古代博物館所蔵の壁画片の保存修復を10月9日～11月8日にかけて行い、文化財専門家の人材育成・技術移転に関する協力を継続して実施した。また、報告書『タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイヴ カフカハ遺跡群の図面と出土品（土器と木彫）』、および『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2010年度（第8次～第10次ミッション）』を刊行した。

②国際協力・交流等 Area11

3-4. 中央アジア：

中央アジア各国における考古遺跡の保存とドキュメンテーションに関する協力を実施した。

キルギス共和国では、6月27日に国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所と合意書および覚書を締結し、10月6日～17日および2月4日～10日にかけて文化遺産のドキュメンテーションに関するワークショップを実施した。3月14日～19日にかけてキルギス人専門家3名を招聘し、研究会を開催した。(以上、文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」と連携。)

カザフスタンでは、9月27日～10月19日にかけて遺跡の地下探査に関するワークショップを実施し、キルギス共和国にて、10月18日～26日にかけて遺跡の測量に関するワークショップを実施した。(以上、ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金「シルクロード世界遺産登録にむけた支援事業」と連携。)

3-5. コーカサス：

アルメニア歴史博物館との合意書を6月24日に締結し、考古金属資料の保存修復に関する協力事業を開始した。考古青銅遺物の保存修復に関して、国内ワークショップを1月24日～2月3日に、国際ワークショップを2月7日～11日に実施した。(文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「コーカサス諸国等における文化遺産保護に関する拠点交流事業」と連携。)

3-6. エジプト：

JICA事業「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」のフェーズⅠ及びフェーズⅡにかかる国内支援業務を継続して実施した。

4. 国際会議への参加

「“Second Meeting of the Coordinating Committee on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads” International Conference」(5月3-6日、アシュハバード、出席者：山内和也)

「“Expert Members Meeting of the Coordination Committee, Silk Roads World Heritage Serial and Transnational Nomination”」(3月22-23日、タシュケント、出席者：山内和也)

研究組織

○川野邊渉、山内和也、有村誠、影山悦子、島津美子、邊牟木尚美、鈴木環、安倍雅史、川口雄嗣、田島さか恵、本郷浩志、中村寛、近藤洋(以上、文化遺産国際協力センター)、前田耕作、谷口陽子、津村宏臣、藤澤明、伏屋智美、末森薫、松田泰典、山藤正敏、渡抜由季(以上、客員研究員)、杉山洋、森本晋、石村智、脇谷草一郎、田村朋美、田代亜紀子(以上、奈良文化財研究所)